

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「つながり いきいき 倉田っ子」
 【知】自ら問題を見つけ、基礎的・基本的な知識や技能を身に付け、粘り強く解決する子を育てます。
 【徳】豊かな心を通じ、学校や社会のきまりを守り、自分も友だちも大切にすることを育てます。
 【体】心や体の健康に関心をもち、しなやかでたくましい心と体をつくろうとする子を育てます。
 【公】倉田のまちや社会に学び、夢や目標をもって、自分の役割を考え行動する子を育てます。
 【関】多様性を受け入れ、新しい価値を創造し、持続可能な社会の実現に向けて行動する子を育てます。

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

- 問題発見・解決能力
- 自分づくりに関する力
- を
目指すための
中心的視点
- ①探求心を高める教育活動
- ②多面的にものごとをとらえる力
- ③自他を尊重し、お互いに高め合う力
- ④基本的な言語能力

具体化した資質・能力

中期取組目標

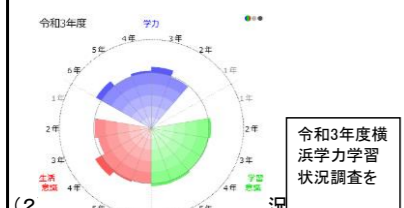
「子ども達一人一人を大切に、まちとともに歩む学校を創ります。」
 ○「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、まちとの「つながり」を通して学びを深める学習活動を充実させる。
 ○目的意識、相手意識を大切に授業展開により、自分自身をより豊かにしようとする児童の育成を目指す。
 ○個に寄り添った支援を大切に、一人ひとりの自己肯定感を育て、安心した学校生活を送れる倉田小学校を目指す。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	①学力向上を図るため、目的意識・相手意識を大切に授業展開を工夫する。そのために教材研究・実技研修・重点研究を充実させる。 ②基礎学力の向上や学習習慣の定着のために学習のスタンダード化(朝学習や宿題など)を図る。
担当	カリキュラム・マネジメント

学力向上に関わる本校の状況

(1) 学力に関わる児童生徒の実態
 倉田小学校全体で見ると、どの学年も横浜市の平均程度かそれを上回っている。各学年の学力層についても横浜市とほぼ同じ傾向の分布となっている。教科学習の状況については次の通りである。
 ○国語科：5年生のみ横浜市平均を下回っている。他学年は平均を上回っている。
 ○算数科：2年生のみ横浜市平均を僅かに下回っている。他学年は平均を上回っている。
 ○社会科：全学年、横浜市平均かそれを上回っている。
 ○理科：全学年ほぼ横浜市平均と同じ。



(2) 「先達し、振る舞う」を大切にした授業展開により学力向上を図るため、主に重点研を通して授業改善を図ってきた。
 ・ICTの効果的方法についての理解を深め、ICTを活用して子どもが生き生きと学び、表現する授業作りを大切にできた。

今年度の目標

- ①「生活・総合」において目指すべき資質・能力を教師が理解し、探究的な学習展開を大切にすること、いきいきと学習に取り組む児童の育成を図る。
- ②宿題や朝学習をスタンダード化するための素地を作る。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
 ①校内研修
 メンターチームと連携を図り、授業力向上のための研修会や授業研究を行う。
 ②重点研究の充実
 「生活・総合」を軸として研究を進めていく。研究の1年目なので、まずは教師が目指すべき資質能力を正しく理解することを大切にする。また探究的な学習にしているための授業づくりの仕方を学び、日々の授業に生かしていく。また地域材の開発一共有一連携をしっかりと進められるようにする。
 ③学習スタンダード作り(宿題・朝学習)
 基礎学力の定着と思考力の育成を目指して、各学年での系統性や内容を学校としてスタンダード化していけるようにする。

下半期
 上半期の内容をもとに、継続・改善を図っていく。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
道徳教育	①「異なる意見」を尊重し、なおかつ自分の意見を主張できる学級の「風土づくり」に努める。 ②子どもたちが自主的に「挨拶」をし、子どもたち同士がお互いに関わり合おうとする人間関係の構築を図る。 ③学習課題を自分事としてとらえ、価値把握と振り返りを大切に道徳科授業を実践していく。
担当	リスクマネジメント部

豊かな心に関わる本校の状況

日々の学校生活は落ち着きがある。基本的な生活習慣はだいたい身につけており、笑顔で挨拶できる児童が多い。しかし、保護者等から、子どもたちの挨拶が返ってこないとの指摘もあり、今後も挨拶への意識化は必要である。横浜市生活意識調査の「挨拶を自分からしていますか」の質問に本校は85% (横浜市平均88.2%)の児童が、肯定的な回答をしている。友達との関係においては、優しく接することができる児童が多い。できていない友達がいると、進んでやってあげる児童も少なくない。横浜市生活意識調査の「自分以外の人のためになることをしたいと思いますか」の質問に本校は95.7% (横浜市平均95.3%)の児童が、肯定的な回答をしている。一方、一部の強い意見に流されることが多く、意見が対立するような場面はあまり見られない。横浜市生活意識調査の「授業では自分の考えを相手に伝えたり、発表したりしていますか」の質問に本校は63.8% (横浜市平均65.4%)の児童が、肯定的な回答をしている。トラブルに発展しにくいので問題は表面化しにくい、子どもたちの関わり方としては希薄な様子が見られる。横浜市生活意識調査の「話したり聞いたりして、人と関わることは好きですか」の質問に本校は90.4% (横浜市平均91.6%)の児童が、肯定的な回答をしている。YPアセスメントや学校アンケートなどで自己肯定感が低く、自信がない児童が一定数いることがわかる。

今年度の目標

自他を尊重し、子どもたち同士がお互いに関わり合おうとする人間関係の構築を図る。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
 道徳教育については、学習課題を自分事としてとらえて振り返ることにより、実生活に生かしていく子どもを育てる。日常生活の中で、特に、学級会や朝の会の時などに、友達の意見をよく聞き、それに対する自分の意見をもつことを大切にしたい。横浜こども会議に向けた児童主催の挨拶に関わる活動を実施することにより、挨拶への意識化を図る。

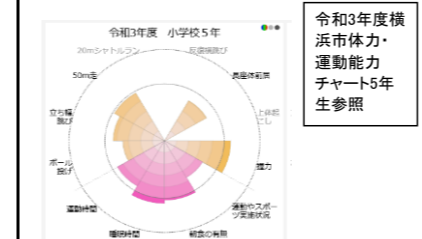
下半期
 道徳教育においては、児童一人一人が、一定の道徳価値の含まれるねらいのかかわりにおいて自己を見つめ、主体的に日常生活の中で実践しようとする子どもを育てる。日常生活の中で、特に学級会や朝の会の時などに、友達の意見をよく聞き、それに対する自分の意見を主張することにより、対立するのではなく、お互いに認め合えるような学級づくりを目指したい。各教科の学習において、互いの立場や考えを尊重しながら言葉で伝え合う力を高め、豊かな心性を育てる。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	①豊かなスポーツライフが送れるよう、実技研修をしたり授業や材の共有をしたりすることで、授業力の向上に努める。②体力テストの結果をもとに、実態に合わせた体力向上の取り組みを行えるようにする。③健康な体づくりを推進するため、「食育」に焦点をあてて取り組んでいく。
担当	カリキュラム・マネジメント

健やかな体に関わる本校の状況

(1) 健やかな体に関わる児童生徒の実態
 令和2年度は新体力テストは実施しなかった。令和3年度の新体力テストでは、シャトルランと反復横跳び以外の項目を実施した。倉田小学校全体で見ると、どの学年も「握力」においては横浜市の平均値を上回っている。その他の項目については横浜市の平均を下回っている。特に「ボール投げ」「長座体前屈」「立ち幅跳び」については、過去のデータから鑑みても課題として捉えられる。また生活実態においては、4年生と2年生は横浜市の平均を上回り、その他の学年は平均とほぼ同程度となっている。



(2) これまでの学校の取組状況
 「倉田っ子 体力アップ プロジェクト」として楽しみながら運動に取り組むことで、運動に親しむ資質を養ってきた。具体的な活動として体育委員会による縄跳び運動の推進や体育部発の授業づくり通信の発行などを行ってきた。

今年度の目標

- ①授業の実践提案や実技研修、学習カードの共有化を行うことで、授業力の改善に努める。
- ②本校が課題としている「体の柔らかさ」や「投の力」の向上を目指す。
- ③「食育」を通して、健康な体づくりを目指す。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
 ①授業力向上に向けて授業実践提案や実技研修、学習カードの共有化を通して体育科の授業づくりや各単元における留意点を確認することで、授業力の向上を図る。
 ②「体の柔らかさ」や「投の力」の向上に向けて体育委員会を中心として「」の能力を向上したり、取り組んだりできるような集会等の企画をしていく。
 ③健康な体づくりに向けて学校として「食育」に視点を当てながら毎月末の月曜日に「食育タイム」を設けて各クラスごとに指導をする。また総合や生活科なども関連づけながら健康な体づくりに向けての指導を行っていく。

下半期
 上半期の内容をもとに、継続・改善を図っていく。